

おしまいになったもの くわ 詳しい 内容

もうしでないよう
【申出内容】

せんせい ほちょうきよう まいく ただ つか かた
先生に補聴器用のマイクを、正しい使い方（※）で使ってほしい。

ただ つか かた まいく くび か くちもと ぼしよ
※正しい使い方：マイクを首に掛けて、口元から15～20cm ぐらいの場所におく

もうしでしゃ い ぶん
【申出者の言い分】

はいりよ た
配慮をしてもらっているが足りない。

1 まいく ただ つか かた き
マイクの正しい使い方でない、聞こえにくい。

2 なに はな き
何を話しているかが聞こえても、はっきり聞き

と おお はじ き こと ば
取れないことが多く、初めて聞いた言葉はわからない。

3 ほんにん ほう む はなし じかん かぎ
本人の方を向いて話をする時間は限られていて、聞き取れないことが多い。

4 じゆぎよう とし こべつたいおう じゆぎよう
授業ではない時に個別対応されても、授業の内容はわからない。

じぎようしゃ い ぶん
【事業者の言い分】

つぎ はいりよ ほか たいおう
次の配慮をしているため他の対応はできない。

1 まいく ほんにん つくえ うえ お
マイクを本人の机の上に置く。

2 ほんにん いちばんまえ すわ
本人を一番前に座らせる。

3 じゆぎよう とし ほんにん む はなし
授業の時に本人に向かって話をする。

4 き こうぎないよう りかい
聞こえづらいことによって講義内容を理解できない場合は個別に対応する。

ほか せいと はな ないよう ほんにん つた
他の生徒に話す内容が、本人に伝わらないよ

まいく すいっち そうさ など おも
う、マイクのスイッチ操作をすること等が重い

ふたん すいっち そうさ わす
負担になる。また、スイッチの操作を忘れると、

こじんじょうほう も しんばい
個人情報情報が漏れる心配がある。

【あっせんの^{ないよう}内容】

せんせい 先生には、ただ ^{つか} ^{かた} ^{まい} ^く ^{つか} 正しい使い方^でマイク^を使^って^ほしい。

【調^{ちよう}整^{せい}委^い員^ん会^{かい}の考^{かん}え^が方^{かた}（あっせん^{りゆう}をする理由）】

じぎょうしゃ 事業者は、ほんにん 本人^{たい}に対して^{はいりよ}配慮^たをしているが、足りない。

ほんにん 本人の^き ^{ちから} ^き ^{かた} ^あ ^{ひつよう} ^{はいりよ} ^{おこな} 聞く力^や聞こえ方^に合わせて、必要な配慮^を行^って^ほしい。

まいく マイクの^す ^い ^っ ^ち ^{そう} ^さ ^{まい} ^く ^う ^{わた} ^{おも} ^ふ ^{たん} スイッチ操作^やマイクの受け渡し^が重い負担^にはならない。

【厚^{こう}生^{せい}労^{ろう}働^{どう}省^{しょう}の資^し料^{りょう}に書^かいてある^{ないよう}内容】

ちようかくしょうがいしゃ 聴覚障害者は^{ほちようき} ^{じんこうないじ} ^{つか} ^{ひと} ^{はな} ^{とき} ^{しゅわ} ^{ひつだん} ^{こうわ} 補聴器^や人工内耳^{（※1）}を使^ったり、人と話^す時^に手話^や筆談[、]口話^{（※2）}

などがあるが、^{ひと} ^{じゅうぶん} ^{おお} ^{ちようかくしょうがいしゃ} ^{はな} ^{あいて} ^{ぼめん} 一つ^{だけ}で十分^{では}なく、多くの聴覚障害者は話^す相手^や場面^{によ}って

いろいろな方法^を組^み合^わせるなど使^い分^けている。」

※1 ちようかくしょうがいしゃ 聴覚障害者の^き ^{たす} ^{からだ} ^{なか} ^う ^こ 聞こえ^を助^けるために、体^{の中}に埋^め込^むもの

※2 くち ^{かたち} ^{うご} ^み ^{はな} ^{ないよう} ^{りかい} ^{ほうほう} 口の形^や動き^を見^て、話^している内容^を理^解する^方法

【結^け果^{っか}】

ほか ^{ひと} ^{りようかい} ^え ^{じぎょうしゃ} ^{まい} ^く ^{つか} 他人^の了解^を得^たう^えで、事業者^がマイク^を使^うこと^にな^った。